

## 平成27年度数学科授業研修会，新任教員研修会報告

- 1 日 時 平成27年11月12日（木） 10時10分～15時30分
- 2 会 場 浜松修学舎中学校・高等学校
- 3 参加者 31名
- 4 内 容

### 第1部 研究授業

深澤孝紀先生（高校1年／新任）

- ・数学Ⅰ「2次不等式」

大木 実先生（高校3年）

- ・数学Ⅱ「直線の方程式」

<質疑応答より>

質問：ビジネス科の検定の合格率は？

回答：ビジネス科は何らかの検定の3級以上は合格している。

### 第2部 講演会

中学・高校における、ICT活用について ～全国の活用事例から～

講師 足立大樹先生（株式会社ベネッセコーポレーション）

#### 講演内容の要旨

#### ・教育のICT化

教育再生3本の矢の1つ

『教育のIT化に向けた環境整備4か年計画』

佐賀県公立全高校・東京都荒川区全小中・大阪府大阪市全小中におけるタブレット導入

#### ・高校教育改革

育成すべき資質・能力を踏まえ教科・科目の新設、目標・内容の見直し

アクティブラーニング視点からの不断の授業改善

#### ・ICTを活用する場面

アクティブラーニング（協同学習・生徒主体の課題解決型学習）

アダプティブラーニング（個別学習・生徒個々の特性に応じた学習）

#### ・実際のICT活用事例

反転学習を取り入れ、授業でグループ学習の形式で演習を行う

授業の感想を提出することを宿題とし、生徒の理解を確かめ、内容を配布する

生徒の良くある質問の動画解説をあらかじめ作っておき公開する

学び直しの課題をネット配信する

学習状況を確認する

→何を効率化し、何の効果を高めるのかを考えることが重要

<質疑応答より>

タブレットの学習は基礎力の向上に向いていないという論文があるがどうか？

タブレットはどちらかというと低学力層での実用が適している。取り組みやすい媒体である。ただし、あくまで一部のツールに過ぎないため使い分けが必要である。また、数学に関しては、途中式や数式が書けないため、生徒の基礎力を調べるには難しい。英語などは向いている。ただ、本来タブレットでの学習は、スマホやタブレットで遊ぶ時間があるのならば、アプリで勉強しろという考えと、学校の教員の負担軽減を目的として作られたもの。

タブレットを全員分用意する必要はないのか？

自宅のPC、携帯、タブレットでも使用可。また、ハード面での金銭面を抑える方向にある。全員にタブレットを買わせる費用よりもよりアプリの充実を図るため、全員購入をやめ、授業での携帯使用を試みている学校もある。これに関しては生活指導の面からも、賛否両論があり今後の課題。タブレットは充電されていないことがあるが携帯を充電していない生徒はいなく、使用しやすい。また、アクティブラーニングの授業は机間巡視しやすいため、携帯電話をしようして他のアプリ等で遊ぶ生徒はいないという。

タブレットのセキュリティー管理についてはどうしているのか？

学校からの貸出しタブレットには閲覧に規制をかけている学校が100%である。

class i (ベネッセのオンラインコンテンツ) の費用はいくらか？

生徒1人当たり1年間で3600円必要。教員はかからない。多くの学校が教材費として徴収している。

class i の静岡での使用校はどうなっているか？

三島北、御殿場、静岡北が使用している。静岡県は校長の判断で、決めることができる。全国で140校が現在使用しており、首都圏や私立が多い傾向にある。

class i の使用によるトラブル等はないのか？

現在のところトラブルの報告はない。自分たちで使い方のルールを決めて使わせ、使い方が悪ければ自分たちの首を絞めることになるので、動ける範囲が制限されている。初めの強めのアナウンスも必要。class iには通信機能も備わっており、グループで連絡事項ができる。生徒だけのグループは作ることができないが、教師同士、教師と生徒のグループは可能。そこで、教員が教員のみグループだと思い込んで生徒の話をし出してしまい保護者よりクレームがきたというトラブルは生じた。そこから生徒が参加しているのか、していないかが一目で分かる機能を付けた。他にも、勉強時間のランキングや宿題問題でのコメント欄など、教員の要望でclass iは改善している。

報告：数学科専門部会副会長（浜松学院中学高等学校） 成瀬洋右